

これまでの「当たり前」からの脱却

教育委員会と学校園が「3つの視点」で業務等を見つめ直し、これまでの「当たり前」からの脱却に挑戦する。

■ 慣習や前例にとらわれずに社会情勢をとらえる

- ・学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止める。
- ・試行しながら「できることからまずは取り組む」ことを優先し、柔軟かつ機動的に見直しを重ねる。

■ 本来の目的に立ち返る

- ・「何のためにやるのか」を改めて考え、手段と目的を混同しない。

■ 持続可能か

- ・人事異動等により組織構成、実施主体等が変わっても、継続できるか。
- ・少子化や生産年齢人口の減少が加速する未来においても、現在と同じやり方で継続できるか。

教職員の働き方改革 「見つめ直し」重点項目

国の骨太方針2023及び中教審緊急提言を踏まえ、以下を重点項目として取り組む。

観点		方向性	具体的内容	
1	教職員の健康の 保持増進	在校等時間の 削減	1	長時間勤務者に対する改善計画の作成と実施
2	教員が学ぶ時間・ 子どもと向き合える 時間の確保	多様な人材の 配置・活用	2	教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の配置
			3	授業時数の柔軟な運用と適切な管理
		4	長期休業期間の見直し	
		5	採点、授業準備・教材研究におけるICT活用の推進	
		6	校内清掃のあり方	
		7	学校行事、校外学習、宿泊学習の精選	
		3	保護者・地域・ 学校・教員の意識 変革、役割の相互 理解	学校・保護者・地 域の役割分担の 明確化・適正化
9	持続可能な学校部活動への移行			

Action

1 自前（自校）主義からの脱却

- ・標準化、共有化への転換

Action

2 長時間≒成果からの脱却

- ・時間対効果への転換

Action

3 学校や献身的な先生任せからの脱却

- ・学校、家庭、地域総がかりで子どもを育てる体制への転換

「見つめ直し」重点項目の取組による効果

「見つめ直し」重点項目の取組後

教員の勤務環境が改善し、**働きやすく「働きがい」のある学校が実現**

めざす教職員・ 学校園の姿 の実現

1. 教職員が心身ともに健康な状態で、安心して働くことができる
2. 教員が子どもの成長を実感することができる
3. 保護者・地域と信頼関係を築くことができる

堺の教育の充実

- 教員が子どもに向き合う時間が増加する
- 教員が高いモチベーションで子どもたちにより良い教育を行う
- 学校、家庭、地域が総がかりで子どもを育てる体制が整う